

特集 ◇ アウト・オフ・ホールド

撮影 佐々木悦久

# 「私を超えられない日本人の器」

危機の本質<sup>ハザード</sup>を自覚しているか！

金 美齡

(きん・ひれい)

○拓殖大学学長

渡辺利夫

(わたなべ・としお)

政権交代が実現して百日が過ぎ、その内実の危うさが露呈してきた。

言い換ればそれは、戦後日本人が金科玉条としてきた日本的民主主義の本質が、国民の前にあらわになつたということである。東西冷戦構造崩壊以後、「戦後レジームからの脱却」という課題をおざなりに処理してきたのが、現在のわが国の閉塞感を生み、国民を内向きな無気力状態にさせ、「いま、目の前にある危機」さえも先延ばしにする鈍感な国民に貶めてしまつてはいる。本当の危機はここにある。

長い間、台湾独立運動に身を挺し、昨年九月に日本の国籍を取得した、台湾と日本という二つのアイデンティティを一つに統合し、是々非々一貫の歯に衣を着せぬ発言で知られる金美齡氏と、東アシアの近現代史に造詣が深い経済学者として知られる渡辺利夫氏という二人の教育者が、現政権の問題点を坦々に載せながら、戦後の危うい民主教育の教条主義に陥った国民を覺醒させ、次代に繋ぐ人材育成について語り合う。



## 「時代の潮目」が 来つつある予感

金 いまの閉塞した社会の中で、いちばんの問題は教育にあると思います。特にいまの日本人は、強い者に対して相手が口に出して求める前に勝手に斟酌して自己規制してしまう器の小ささというか、この空気がとても心配です。

渡辺 私は昭和十四年（一九三九）生まれで、敗戦後一年目に小学校に入学しました。田舎に育ったからかもしれません。が、昭和三十年代に入るころまでは戦前の雰囲気が残っていて、のちに日教組教育と言われるような反日の教育を受けずに済んだ。ところが、昭和三十年代の後半から徐々に日教組教育がグラスルーツにまで根を張つて定着してしまったのでしうね。そういう時代以降に青少年期を送った人間が、いまの日本の政党のリーダーたち、日教組教育の申し子なんでしょう。

私は鳩山（由紀夫）首相をテレビで眺めていて、決して彼を特殊な人間だとは思わない。戦後教育がつくりだしたシンボル的人間ではないかと思いますよ。これは何も民主党だけの話ではありません。

自民党の中にも、加藤紘一さんとか山崎拓さんとか、そういう人はたくさんいます。旧社会の人たちと属している政党が違うだけで、みんな同じような感覚なのです。戦前が悪で、戦後になつて初めて民主主義が根付いて今日があるといふうに考へている、戦後教育によつてつくりだされた典型的な人間たちです。そういう人たちによつて、政界から財界まで現在の日本の指導者層が握られてしまつている。ここに自己規制の原因がありますね。

金 要するに、最大公約数的な考え方ですね。鳩山さんが言われる「友愛」も、

ある意味ではきれい事です。誰も反対できないきれい事を戦後の日本人は好みます。例えば、「人権」もそうですが、国益とか現実の問題を一切飛ばしてしまつて、きれい事で済ませるわけです。

それともう一点、鳩山さんが国益よりも、日本が国際社会や途上国にどれだけ尽くせるかというとき、最大数値をいきなりぶち上げてしまう甘さね。この鈍感ぶりには呆れてものが言えない。戦後教育は、まったく交渉のできない人間を育ててしましました。

渡辺 外交で言えば、「友愛」というのは、国際関係が友好と善隣の体系だと思



金 美齡 きん・びれい

評論家・JET日本語学校理事長。1934年台湾生まれ。59年来日、早稲田大学第一文学部英文科入学。62年台湾民主化運動を日本で推進、反政府ブラックリストに載り政治難民となる。71年早稲田大学大学院文学研究科博士課程単位修了。大学院生のときから早稲田大学はじめ多くの大学で講師を歴任。75~76年ケンブリッジ大学客員研究員。88年JET日本語学校設立、校長に就任(~2000年)。92年反政府ブラックリストから削除、31年ぶりに台湾に帰国。2000年台湾総統府国策顧問に就任(~06年)。著書に『政治家の品格、有権者の品格』(ゴマブックス)など多数。

い込んでいるということです。周辺諸国がナショナリズムを張<sup>みをき</sup>らせて日本に挑戦的な外交を仕掛けているという認識はまるでない。そういう意味からも、「友愛」は戦後教育の見事な産物なんですよ。「友愛」が日本国家の目的だというのは本末転倒です。目的は国益、つまり国民の生命、財産を守ることであつて、「友愛」はその手段でしかあり得ません。とかく日本人は中国のこととなると、友好それ自体が目的だという考え方になつてしまっています。憲法の前文に見事に書いてある考え方ですね。

戦後の米ソ冷戦構造の中で、アメリカは、国際関係が友好と善隣の体系だと思

の庇護の下で日本の安全は百パーセント守られました。「公」のことを国民が考えなくとも、日本人は安穩に暮らすことができたことも大きな要因だと思します。本来なら、冷戦が終わったときに再認識されなければならなかつたテーマでした。冷戦が終わつて日米同盟もかつてほどの力を持たないとすれば、日本はどうやつて国家を守つていくのか。世論も盛り上がりなかつたし、ジャーナリズムも保守派の論壇人も然りだつたことに問題がありました。「公」はいまだに日本本人の心を捉えてはおりません。

金　自己規制の本質は洞察力の欠如です。

渡辺先生がお話しになつたようなことと同じような考えの人はたくさんいるとと思うんです。それこそ渡辺先生に「私たちが言えないことを、よくおっしゃつてくださいました」という言い方をする人はたくさんいるんだけれども、その「私たちには言えない」という姿勢をどう払拭するかが教育の課題だと思います。

渡辺　いま私は、中学の公民と歴史の教科書の監修をやつていますが、杉並とか横浜で採択数が増えつつあります。おそらくこの採択率が一〇とか一五パーセントを超えますと、希望的観測ですが、その後、採択率は右肩上がりに増えていくんではないかと思います。「よくぞ言ってくれた」と思つてくださる親たちは、われわれの想像以上に広がりを持つていると私は実感しています。彼らに対してもより明確なメッセージを伝える努力をして続けていけば、この二、三年のうちに大きな変化が表れる可能性がある。つまり、「時代の潮流」が来つつあるような予感が私にはあるんですが。

金　私も同じように感じます。というの

理念がしつかりしているだけでなく、それをきちつと表現する勇気、公にする勇気が必要なんですね。



渡辺 利夫 わたなべ・としお

拓殖大学学長。1939年（昭和14）山梨県生まれ。70年慶應義塾大学大学院経済研究科博士課程修了。経済学博士。80年筑波大学教授、88年東京工業大学教授、2005年拓殖大学学長・大学院長に就任、現在に至る。専門は開発経済学。日本学術会議会員（第17期）、国際協力に関する有識者会議議長などの要職を務める。JICA功労賞、外務大臣表彰。著書に『成長のアジア 停滞のアジア』（東洋経済新報社・吉野作造賞）、『西太平洋の時代』（文藝春秋・アジア太平洋賞大賞）、『開発経済学』（日本経済社・大平正芳記念賞）、『神経症の時代』（TBSブリタニカ・開高健賞正賞）、『新脱亜論』（文春新書）、『人間ドックが「病気」を生む 「健康」に縛られない生き方』（光文社）など多数。

が、二年ぐらい前から増えています。テレビの視聴者からも「よくぞおっしゃつてくれました」という声が多くなっています。活字に比してテレビの影響力は大きいですから。

私はもともと本音で勝負の人間だから、一時テレビの番組から降ろされていたこともあります。誰も反対できない「友愛」みたいなことを話していれば無難で局からも重宝されますが、それは主義に反します。ところがここ数年、私みたいにはつきり物申す人間が一人は必要になつてきました。私の厳しいひと言が必要だと視聴者が求めるようになつてきたことを肌で感じるわけです。

## どの時代でも個人の生きる道と 国の繁栄は一直線に繋がっている

渡辺 同じような経験で言えば、NHKの「日曜討論会」に私のような考え方の人間を呼んでくれるようになつた。異論を持つた人間が一人くらいは入らないと実際議論にならないし、視聴者にも不満が残るというような時代になつたのでしょうね。例えば、核に対する発言はタブーではなくなっています。日本が急迫の事態に陥つたとき、こういう手続きを踏ん

で核を開発・保有するという一枚の工程表を用意して国際的に発表しておく必要がある。この工程表の存在が必ずや日本への攻撃の抑止力になるといった発言がNHKでもできるようになつています。

日本は核攻撃を受け、三十万人近い人が一瞬にして犠牲になつた唯一の被爆国です。だからこそ二度と国民を核の慘禍に見舞わせるわけにはいかないのだ。だから工程表が必要なんだと結んだわけです。

このあたりになると反論もなかつたんですが、このような話が、条件付きながらも公共のメディアで発表できるようになつた。番組のスタッフからもよかつたと言つていただきました。その番組を見ていた「産経新聞」の方に勧められて執筆したコラムに対しても、読者から「よくぞ書いてくれた」という反応が久方ぶりにありました。

金 逆に、若い人たちを非常に内向きにしてしまう可能性がありますね。私はむしろそのほうが現実的な気がします。「草食系」と言われる男子の不甲斐なさの根底は、全部そこから来ると思います。

渡辺 大学で『坂の上の雲』をテキストに使ってゼミをやつたことがあるんですが、どこがいちばん新鮮であったかをレポートに書かせるんです。ほとんどまともに本を読んだことのない学生ですが、十人いれば二、三人が、個人が国家とともにあつた、あるいは個人の榮達が国家の興隆と直に結び付いて、個人と公の差のなかつた時代、秋山兄弟のような生き方があつたことを知つて、感動するわけです。つまり、現代であつても、教えられてこなかつた歴史の事実を知れば、「公」に生きることの意味を自覚しますね。

次第に溜まつていって、次の時代には、その鬱屈に耐えられず日本人が軍事大国、核開発・保有を選択する可能性が大いにある。いまの日本の安全保障への対応の仕方が、次の世代を爆発させる可能性があることになぜ日本の指導者は思いをいたさないのか。日本人がいまいちばん恐れなければならないのはこのことだ。そのくらいのことをなぜ論点にしないのかとも話したんですけどもね。

金 逆に、若い人たちを非常に内向きにしてしまう可能性がありますね。私はむしろそのほうが現実的な気がします。「草食系」と言われる男子の不甲斐なさの根底は、全部そこから来ると思います。渡辺 大学で『坂の上の雲』をテキストに使ってゼミをやつたことがあるんですが、どこがいちばん新鮮であったかをレポートに書かせるんです。ほとんどまともに本を読んだことのない学生ですが、十人いれば二、三人が、個人が国家とともにあつた、あるいは個人の榮達が国家の興隆と直に結び付いて、個人と公の差のなかつた時代、秋山兄弟のような生き方があつたことを知つて、感動するわけです。つまり、現代であつても、教えられてこなかつた歴史の事実を知れば、「公」に生きることの意味を自覚しますね。

**金** 私たちのように、世間に物を申す機会を与えた人間が説かなくてはならないことは、「公」に生きることは普遍のことです。いま多くの考え方だということです。成徳の時代では、日本は夢も希望もなく、成徳した現代社会と『坂の上の雲』の時代はまったく違うんだという風を吹かせています。けれども私が常に言るのは、どの時代でも基本は個人だけれども、個人の生きる道と国の繁栄は、一直線に繋がっているんだということですね。

**渡辺** まったくその通りですね。金先生の生い立ち、置かれた状況からすれば、そのことは強いリアリティを持つて受け取られると思うんです。ところが、日本人はなかなかそう考へることができない。けれども多少なりとも俯瞰した目で現代の東アジア情勢を見れば、日本に吹いてくる風は、開国維新期から日清・日露戦争期あたりまでの緊迫した情勢とそれほど変わっていない。いまは核ミサイルの時代ですから、かえって緊迫度は増しているはずなんです。

先ほど話に出ました戦後教育を受けた世代、特にアカデミズムの世界では、ポスト・モダニズムの現代は、国境観念とか、国家の紡いできた歴史の観念のすべてを否定するという考え方があつたぜ

ます。そこで、私が彼らに疑問を呈するのは、日本がEUの一員ならば正当性はある。しかし、わが国の周辺諸国は、十九世紀的と形容したいくらいのナショナリズムを滾らせて日本に迫ってきていた。その中で、ポスト・モダンの涼しい顔をしていて一体日本は生きていけるのか？もし、ポスト・モダニズムを貫きたいのであれば、日米同盟を堅牢にすることなしにはそれは無理ですよ、と私は言います。実際彼らも、とことんものを考えて発言しているわけではないんです。金身過ぎ世過ぎもあるんです。誰からも反対されないし、自分の仕事も守られる。彼ら一流の処世術です。ただ、そのことを心底信じているかと言うと、はなはだ疑問です。

**渡辺** 情けないこと限りなし、ですね。

**第三者的役に立てる実体験が「公」の精神を目覚めさせる**

渡辺 私が拓殖大学に奉職して十年になります。国際開発学部を立ち上げ学部長をやり、その後学長として五年です。その間、どうしたら学生を「公」に目覚めさせることができるか、先ほど触れたゼミもそうですが、いろいろなことを実行

してきました。一年生のできるだけ前期に、貧困国に一ヶ月ホームステイさせてその体験を単位化するという試みはその成功例です。フィリピンでストリート・チルドレンのお世話をすると、あるいはスマーキー・マウンテンに行って子供会づくりのお手伝いをする。

学生は生まれて初めて、自分を超える第三者、しかも困っている人や貧しい人に助力の手を差し伸べることを体験するわけです。十人のうち三、四人は「おっ」と思うように、顔つきが変わって日本に帰ってくるんですね。晴れがましい、誇らしい感覚を初めて味わった結果だと思います。「公」の原点に目覚めさせる、ということになりますようか。もちろん日本にも手を差し伸べたい方々もいるはずなんですが、豊かな社会ではその場が見えないんです。

**金** よく分かりますね。自分に対して自信が持てる、誇りが持てるという感覚を得るチャンスが、いまの子どもたちにはほとんどないですからね。

**渡辺** 一年生のときにこういう体験をした学生の中で、二年生になつて今度は自分で行きたいという学生が出てくるんですね。また、卒業生の中で夏休みにもちらん自費で参加したいという者さえいます。

あのときの体験が懐かしくて、何かのお役に立てたという幸せな感覚が忘れられないというんですね。

第三者的ために何かをやることの誇ら

しさを感じる体験は、「公」の精神を身に付けることに繋がっているはずです。やはり教育の場は教室だけではなく、フィールドもありますね。

金 バーチャルじゃ駄目なんです。自分が他人の役に立つという実体験、感覚が大切なんです。

そうやって大学も力を入れて努力なさっているわけですが、先日櫻井よしこさんが指摘されていたことなんですが、いま大学や大学院で中国の学生がどんどん増えてきて、特に国立大学では顕著だと。いまや日本の公教育によって外国人が育てられ、肝心の日本人の学生がおざなりにされているという話だったのですが。

渡辺 拓殖大学の例で言いますと、大学院を含めた約一万一千人の学生のうち、ちょうど一割が留学生で、そのうちの七十数パーセントが中国の学生です。その比率は平均値ですが、マスターにいくと平均値がグッと上がり、ドクターにいたらさらにその比率が上がります。先日一橋大学のあるゼミナールに話にいったときには、十数名の院生全員が中国人で

した。

実はいまポストドクを日本の企業や研究所ではほとんど採用しませんから、教員はどうせ浪人になると日本人を採らない。留学生であれば、祖国に帰って祖国の発展のために尽くしてくれるだろうというわけですね。

金 そうなると、日本人を育てるという意味では危機的状況ですね。これは最近聞いたある国立の大学院大学での話ですが、十二月二十三日の天皇誕生日の祝日に、中国人教授のクラスだけ授業をやつたというんです。

金 年末年始に用事があるというエクスキューズなんだろうけれども、これは明らかにひとつのお意表示です。かつてA級戦犯を処刑したのが十二月二十三日の皇太子の誕生日だったという話を思い出しました。これはアメリカがやったことなんですが、十二月二十三日はナショナルデーです。私が言いたいのは、自分の都合の前に、日本の国立大学の教授として生活の糧を得ている人間にもかかわらず、わざわざその日に授業をやる考え方です。日本人が、まだまだたくさんいることを日本人は認識すべきだということなんです。そういう外国人に教職を与えて、理

由はどうあれ日本人が職に就けないなんて、肝心の日本人は一体どうなるんでしょう。

渡辺 確かに教養課程などではインストラクターは中国人が多い。コストもかかりませんし、数理に長けてる優秀な人が多いですから。

金 しかもアグレッシブです。

渡辺 背に腹はかえられないという面もあるわけです。中国人がこなければ学部自身が成り立たないという状況にあります。受験生の工学部離れの傾向には甚だしいものがあります。かなり有名な大学の工学部でも定員割れを起こしかねない状況が出ています。中国人を受け入れなければ、大学の経営自体が成り立ちにくくなっているんですよ。大学経営の中に中国人留学生がビルトインされているのが現実です。

金 われわれの時代、中国人は出国できなかつたために、アメリカの大学でオリエンタルというと台湾人か日本人でした。どちらかというと日本人はいずれ母国に帰りますが、台湾人はアメリカで教員となつて根を下ろしていく傾向にあります。ところが、いまこの世代がほとんど引退して、代わりに入ってきたのが中国人です。一族郎党とともにアメリカに渡



つてきて、しかも大変アグレッシブだから、もう競争前に勝負が見えたという感じです。いまではオリエンタルというと中国人というほど中国人が席卷しています。学生も同じですね。

**渡辺** いまのお話で思い出したことがあります。中国で使われている経済学のテキストで定番となっているのが、これは日本でも同じですが、アメリカのエコノミストのクルーグマン、マンキューの二人なんですが、この二人のテキストの最大の出版国はどこかと言うと中国なんですね。自分の著書がいちばん売れる国は心情的にかわいいですし、現に自分の教え子が中国で要職に就いていますしね。

アメリカの優れたエコノミストと、中国の政権中枢部にいる人間との親和性が非常に高くなっているという次第です。

いま言つたことはほんの一例ですが、米中というのは、日本を通り越して、知的世界の面では今後益々コネクションが強まっていく可能性がありましようね。

**金** 十三億人も人口があれば本当に優秀な人間がいるし、まだまだ『坂の上の雲』のエネルギーが漲っていますから、確かにわれわれには勝ち目がないかもしません。例えば、私の経営する日本語学校は学生数百五十名ほどの小さな学校です

が、どんなに経営的につらくても我慢して、中国人は入学させない方針を貫いて、幸い今日まで来ることができました。けれどもこれは小規模だからできた話で、大学とか五百人以上の規模になると経営が成り立たなくなるんですよ。

だからと言つて、中国人に頼ることを前提とすると、もう国として成り立たなくなる。実際台湾はそうなつているし、日本も一億二千万人の中で、どれだけの人材をどう育てていくか、特に教育に携わる人は真剣に考えていかないと、手遅れになってしまいます。

### 個対個の関係は国対国の関係に置き換えることはできない

渡辺 私は韓国研究から始めて東南アジアの開発経済学を勉強し、このところは中国に関心を持つてゐるんですが、そういうわけで随分アジア各国の留学生が私のところに留学してきて、卒業後も親密な、温かい交流があります。日本に残っている人もいますが、母国に帰つてそれなりのステータスを得てゐる人も少なくありません。韓国の教え子などは、私がうつかり内緒で日韓会議などに出て、後で報道か何かで私の訪韓が知れようもの

なら「水臭い」とのお叱りしかりを受けるくらい、厚い師弟関係があります。

しかし、私がいまここで言いたいのは、そのことではありません。とかく世間では、そういう個人と個人の付き合いを友好的なものにし、理解し合い、尊敬し合えば、つまり、個人、市民、地域の多層的なレベルで交流し合えば、国と国との関係も良くなるという考えがありますが、私は違うと思います。個人はどこまでも親しくなり得るけれども、民族とか国家という単位になつたら、エゴイズム丸出しでぶつかり合う関係になる。個人はまったく関係ない。かつての日米戦争だって個々人の親密な交流はあつたわけです。

個人の関係を民族、国家の関係に置き換えることはできないという「背理」を、私は中国人も含めて学生にもよく話します。問題は国家だ、ということを学ばなければ国際関係など到底理解できませんものね。

渡辺 知識や理論を持った反日ではないということですね。もっと根深いところで日本人を蔑視している構造があることを、私も最近つくづく感じます。

金 まつたく同感です。もちろん私は、基本的に知的な人だつたら中国人といえども個人的な付き合いの中で対話は成立つと思っています。しかし、国と国との利益が衝突した場合は違います。例えば、私は昨年九月に日本国籍を取りましたが、それまでは、これだけお世話に

なってきた大好きな日本であつても、台湾人というアイデンティティを持つている限り、もし日本と台湾が戦えば、私はど日本人の友人がいるか分からぬし、台湾より日本で過ごした時間のほうがはるかに長いし、日本の生活が性分には合つてゐるにもかかわらず、それでも私は日本と戦う選択をするしかなかつた。いま私は日本のパスポートを取つたわけですから、私は日本の側に立ちますとはつきり断言できるわけです。

実は、そうした本質的な覚悟のもとで国籍を取得している外国人があまりにも少ない。特に中国人の場合は中華思想を背負つていますから、彼らは一旦事あれば中国を選択する。そのことを理解できないのが、日本人の最大の問題だと思いますね。

渡辺 知識や理論を持った反日ではないということですね。もっと根深いところで日本人を蔑視している構造があることを、私も最近つくづく感じます。

金 理屈じやないんです。中華思想は一種の宗教だと思いますね。

渡辺 年末に南京に行つてきました。現地の日本語学校や大学との提携の合意書にサインするための訪中でした。懇親会

のときに、現地の学校のトップの方、五十代後半の女性でしたが、私がふと「中國でいちばん日本語が通じるのは大連ですかね」と言つたのです。すると「どうしてですか?」と逆に質問された。「日本が長らく大連をお借りしていたものですから」と答えて話はそこで終わつたんですが、中国の大学のトップの方が、かつて日本が遼東半島や大連や旅順を租借していたという事實を知らない歴史をまったく学んでいないわけです。

中国の觀光系の大学関係者が学生の交流プログラムの契約のために来学されたときにもこんなことがありました。私がまことにうつかりですが、「義和団事件」と「東学党の乱」を取り違えて話し、最後に訂正をしたのですが、彼らはそのことにまったく気付いておらずに、あげく「私どもは歴史に関心がありません」とはつきり言わされました。反日教育をやつていると言いながら、ただセンチメントだけなんですよね。

### 民主主義の下に人間を堕落させる危機が目前に迫っている

金 安倍さんのことで言えば、今後も言

い続けて欲しいのは「戦後レジームからの脱却」です。それができなかつたから、こんな日本になつてゐるわけでしょう。

渡辺 安倍さんのような真正の保守派が本格的な力を持ち得なかつたことが、私にとつてのひとつ悔やみですね。

金 あの時代、あの状況の中で、彼が挫折したのは致し方なかつたと思います。ある意味必然的なプロセスだつた。けれども、挫折が彼をもうひと回り大きくすることを願っています。

金 歴史も何も知らないで、ただ反日だけが独り歩きしているんです。けれども知らないから厄介なんです。説明ができないから。

渡辺 日中歴史共同研究が、結局両論併記にならざるを得なかつた要因も、その

あたりにあるんでしょうね。安倍(晋三)首相ともあろう人が、なぜあんな無意味なプロジェクトを立ち上げたんでしょうね。

金 そういうことで決着をつけざるを得ない雰囲氣があつたんでしょうね。

金 そういふことで決着をつけざるを得ない雰囲氣があつたんでしょうね。

たとき、「月刊自由民主」に「十年後を目指して再チャレンジ」とエールを送らせていただいたんです。

渡辺 心強いですね、私も何かお役に立つことがあります。

金 安倍さんにリーダーシップを發揮していただくためには、まともな国をつくつていく以外道はないと思います。

渡辺 平沼(赳氏)さんは残念なことに

なりました。他方、民主党には人がいる

んです。鳩山首相が駄目なら、菅(直人)さんがいますし、菅さんが駄目なら岡田(克也)さんがいる。前原(誠司)さん、

小沢(一郎)さんだつている。そういうかたちでしばらく延命できるのでしょうか。

ね。

金 あれだけの人数がいるということは、圧倒的に強いですね、一応民主主義の中ですから。

渡辺 夏の参院選はどう見ていますか?

鳩山首相と小沢さんが逮捕されない限りマジョリティを取るんじゃないですか。

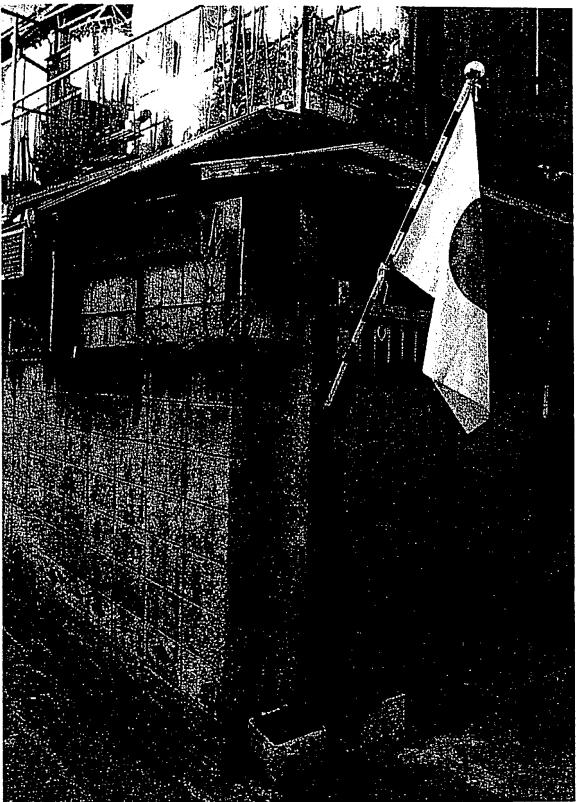
金 私も自民党は及ばないと思います。小沢幹事長の独断専行、傲岸不遜な独裁重ねている政治家はいないと思います。

金 飛び抜けていますね。ただ人柄が良すぎるのが難点ね。安倍首相が辞められ私たちだと思います。あの小沢さんの独

ずに、核開発・保有への道を投票行動を通して実現し得る国なんですね。

金 私はよく言うんですよ、民主主義の下で、人間は堕落すると。こうした歴史の転換点にあって、私たちは国民の鬱屈をどこかに転化させる必要がありますね。渡辺 その辺りの議論を仕掛けていくしかありません。

金 私たちのできる範囲で、国民それぞれにふさわしいメッセージの仕方を工夫しながら戦っていくしかありませんね。



## 一旦緩急あれば 大いなる力となる皇室の存在

渡辺 昨年十二月、天皇と中国の習近平国家副主席との会見が問題になりました

が、この問題を通して私が最も強く感じたのは、立ち居振る舞い、所作、姿、分かりやすく言えば格好ですが、これをなべことだつてないとは言えない。だから、民主主義を甘く見てはいけない、という論法はどうですか。

ヒトラーは、ワイメアール憲法の下、民主主義を通じて独裁に成功した人物です。日本でそんなことが起きないと見えようか、という感じが私にはあります。小沢

裁ぶりに対しても、國民がもう少しパワーを持たせたいと判断したとしたら、日本の先行きは非常に暗いです。

渡辺 ええ。どういう論法で國民に認知させるか、ですね。もし民主党が参院選でマジョリティを取れば、両院で絶対多数になる。こんなことめつたにありません。そうなると、民主主義の名においても何でもできることになります、ワイメアール共和国のように、ですよ。

金 私たちはできる範囲で、國民それぞれにふさわしいメッセージの仕方を工夫しながら戦っていくしかありませんね。

さんの豪腕ぶり、自分が担いだ政権に対するゴリ押しぶりは、独裁的権力者の手法ですよね。

金 間違いなくそうですね。

渡辺 そうするとわが国は、民主主義を通してみたいへん危うい国になる可能性がある。民主主義的な手続きにより、アメリカと手を切つて、中国と同盟関係を結ぶことだつてないとは言えない。だから、民主主義を甘く見てはいけない、という

論法はどうですか。

金 民主主義の非常な危うさですよね。わが国は、先ほど触れたように、次世代の國民が自分たちの屈辱や鬱積に耐えられ

ところにあります。外国人に参政権を与えることは国家の本質に関わることだという意味で、これは決して軽い問題ではありません。むしろ極めて本質的な議論を要するテーマです。国の姿形を傷付けることだからです。

金 私も本質論を言う人間だけど、影響があるかないかで言えば、意見が違います。それは、在日外国人が住んでいる地域が大体固まっているからです。

渡辺 京都、広島とか。

金 ええ、大阪、対馬とかね。その地域の在日外国人は、候補者に対して間違なくキャステーニングボートを握るはずです。そのことを候補者が意識すれば、当選するために在日外国人に擦り寄つていいことになりかねない、由々しき問題です。公明党を見れば分かるでしょう。自民党が麻薬中毒に罹つたかのようになつたのは、公明党にキャステーニングボートを握られたからです。それほど危険だし、怖いことなんです。

渡辺 いまの政権がそこまで考へているのでしょうか。ナイーブな人種平等主義に陥つているだけのように思いますが。金 きれい事なのよ、何も分かつていな

ティティ・クライシスに陥つています。拉致問題も、国民のトラウマとなつてします。なぜ、拉致問題が日本人の心を捉えて放さないか。それは、国民が国家の本質に関わる問題であることを本能的に知つてゐるからです。国民の生命を守つてないじゃないかという、国家に対する本能的な不信感です。

私の同僚に特定失踪者問題調査会代表の荒木和博さんがいますが、荒木さんにありますと、拉致された可能性のある人々の数は数百人にも上るようです。凄まじい数です。拓殖大学の関係者にも現役生とO.B.の二人が拉致されていることが分かつていています。これほど国民の身近に拉致問題があるにもかかわらず、国家は何もしてくれない、必死に取り組んではいないと国民には思われている。国家

渡辺 わが国の指導者層がポスト・モダニズムといった思想に浮ついていても、国民の総体が根無し草にならなくて済んでいるのは、一つの血脉として連綿と続いてきた皇室にわが国の歴史、伝統を無意識下で感じてゐるからだと思います。常に意識しているわけではないけれども、一旦緩急あれば大いなる力となるもの。

金 国民の責任もあるんです。国は国民そのものです。国民がそれだけのパワーを国に与えていない。外国に対しても、断固一歩も退かないという外交をするだけの後ろ盾を国民が担つていないわけですね。

渡辺 確かにわが国は、国家のアイデン

うさの中で、日本を唯一救つてゐるのが皇室です。これだけ国民の価値観がばらになつてしまつた日本で、一旦緩急あれば、昭和天皇の終戦の詔勅のように、

國の姿形の話に戻れば、民主主義の危

だと思います。

